



須崎湾口地区津波防波堤完成予想模型図

臨海工業基地から



急ピッチで工事の進む
串ノ浦ケーンヤード 平成4年10月

であり、市民のゆたかでゆとりある、そして安心して暮らせる生活圏域づくりの礎となるものです。

こうした港湾整備の促進とともに、目前となつた四国横断自動車道の本市までの開通や、それと接続する須崎バイパス（先月十二日起工式）また臨港道路など道路網の整備により、重要港湾須崎港は、

陸海交通の重要な結束点となり、さらに市民文化会館(本年四月オープン)と国道五十六号をアクセスする『水と緑の川端シンボルロード』の完成(来春予定)とあいまって須崎市を中心とする背後圏域の地場産業振興はもちろん、瀬戸内経済圏との国内交流をはじめ、昨年九月に姉妹港の提携を締結した

ニュージーランド最大の輸出港タ
ウランガ港など、世界を舞台とし
ての経済交流発展のための貿易港
として、さらには国際文化交流の
拠点としてのプロフィールを持つ
た国際貿易港としての重要な役割
をも備え、今後ますますの大きな
広がりと飛躍的な発展が期待され
ます。

市民の生命と財産を守るために

須崎港とその背後地は、近年では昭和二十一年に南海沖地震、三十五年にはチリ地震津波など、津波対策が絶対条件となつっていましたが、いよいよ本月二十四日に待望の津波防波堤起工式がなされました。これにより重要港湾須崎港を基盤としての背後圏の今後の飛躍的な発展が期待されます。

須崎湾は、土佐湾のほぼ中央に位置し、リアス式海岸を様する天

然の良港で、古くから多くの物資が流通する港町として発展を続け
てきました。
しかしながら、須崎港およびそ

の背後地は、古くは西暦六八四年の白鳳地震による津波

なりました
現在串ノ浦ケーラン・ヤードの
造成工事が急ピッチで進んでおり、
日こは寺尾町
本月二十四日



南海沖地震(昭和21年12月21日)
鉄道線路に流木の山、前方の大型の木造船が線路にのしかかっている(新町陸橋より西方を望む)
円内の木造船を反対側から撮影(写真内右下)

の背後地は、古くは西暦六八四年の白鳳地震による津波をはじめ、昭和にはいつてからは二十一年の南海沖地震、三十五年のチリ地震津波など、過去、数多くの津波による甚大な被害を受けており、これから港湾都市としての発展く安全で有効な利用を進めていくた

チリ地震津波（昭和35年5月24日）
午前7時35分、桐間堤防が決壊、桐間・妙見町
土崎町・大間東町方面へ怒濤となって侵入
なりました。
現在串ノ浦ケーブル
造成工事が急ピッチ

本月二十四日には待望の津波防波堤起工式が行われ、これを基点にいよいよ本体工事への着手の運びとなります。この市民の命と財産を守る「津波防波堤」は、文字どおり、過去の残酷な津波の被害に